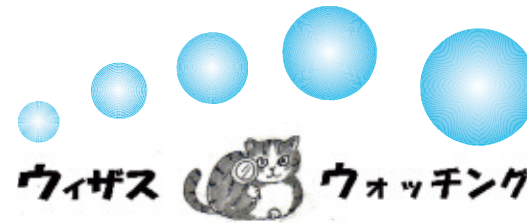




特集

リケジョ (理系女子)

ウィザス



「女性活躍推進法(女性の職業生活における活躍の推進に関する法律(女性活躍推進法))が成立しました。」

今年8月28日、「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律(女性活躍推進法)」が成立しました。本法は、自らの意思により働き、または働こうとするすべての女性の活躍を推進し、その結果として男女の権利が尊重され、豊かで活力ある社会を実現することを目的としています。

また本法は、10年間の時限法(平成38年3月31日失効)であり、緊急の課題である「働く場面での女性の活躍推進」を、期限を区切ることにより迅速かつ重点的に取り組むこととしています。

この法律の成立により、平成28年4月1日からは、国・

地方公共団体および常時雇用する労働者数が301人以上の企業は、女性の活躍推進に向けた「行動計画」の策定・実施などが、新たに義務付けられることとなります。

こうした動きは、これまで子育て等の理由で就業を希望しながら働いていなかった女性、また責任ある立場で働きたいけれども家庭生活との両立が困難であるために昇進をあきらめていた女性、正社員として働くことにチャレンジしたい女性など、働く場面で活躍したいという希望を持つすべての女性にとって、その個性と能力を十分に発揮できる社会を実現するための、極めて大事なエンジンとして機能することが大いに期待されています。



絵 H.M

ワーク・ライフ・バランス

将来は「リケジョ」!? A.S



秘密厳守 女性相談 面接相談

無料相談・予約専用電話 Tel. 38-2022

- ～ご相談には、予約が必要です～
- 日程 ①第1土曜日 ②第1～4金曜日
- 時間 ①午前10時～正午(1人50分) ②午前11時～午後4時(1人50分)
- 内容 心の悩み相談・家事調停相談 ※一時保育(無料)(要予約)
- 【法律相談】■12月2日(水)・1月9日(土)・2月3日(水) ■午後2時～4時(1人30分)(要予約)

男女共同参画「川柳コンクール」作品募集

「男女共同参画」に関することをテーマとした川柳を募集します。奮ってご応募ください。＜*ペンネームでの応募可。詳細は、ちらしをご参照ください＞

- ◆応募期間 11月2日(月)～平成28年1月28日(木)
- ◆対象 芦屋市内に在住・在勤・在学されているかた
- ◆内容 “女だから”“男だから”といったことに「あれ？」と感じた疑問や気づき/家庭・地域・学校・職場で、性別に関わらず自分らしい選択・生き方で活躍している様子/男女がともに働きやすい環境や、暮らしやすい社会を目指すもの/男性の家事参画、女性の活躍を進める などの内容のもの
- ◆入賞作品 市長賞(副賞1万円)1点/優秀賞(副賞5千円)3点以内/入選(副賞2千円)6点以内
- ◆応募方法 未発表・自作作品(3句まで)を、封書・ファクス・Eメールで。※応募用紙は、ちらしの裏面にあります。 ※応募用紙は、市ホームページからもダウンロードできます。

ウィザスあしやフェスタ2016

芦屋市男女共同参画団体協議会21団体と市が主催するフェスタを、今年度も下記のとおり開催します。奮ってご参加ください。

- ◆テーマ **手と手をつないで 地球は一つ**
- ◆日時 ①平成28年3月13日(日) ②3月12日(土)～19日(土)
- ◆内容 ①チャリティーバザー/喫茶コーナー/交流ひろば・共同制作など ②ワークショップ/グループ展示 など
- ◆会場 ウィザスあしや及びリードあしや(公光分庁舎・北館)

一時保育つき大人の読書タイム

子育て中の皆さん、毎月第3月曜日(午前)・火曜日(午前・午後)の2時間、ゆっくりとお好きな本を読んでみませんか？
あなたの読書中、お子さんはウィザスあしやの保育室でお預かりします。

- 日時 【月曜日】12月21日・1月18日・2月15日<午前10時～正午> 【火曜日】12月15日・1月19日・2月16日 <午前10時～正午または午後1時～3時> ※月曜日・火曜日とも先着各4人(2歳未満児の同伴不可)
- 会場 男女共同参画センター ウィザスあしや
- 対象 子育て中の親(祖父母を含む)と子ども(2歳以上就学前児)
- 一時保育 各回とも、先着各4人(1人300円)<要予約>
- 申し込み 各月1日から、電話(Tel.38-2023)でセンターへ

「世界でもっとも貧しい大統領」として知られる南米ウルグアイのホセ・ムヒカ元大統領。2012年にブラジルのリオ・デ・ジャネイロで開催された「地球サミット」での演説が世界中で話題になり、日本でも総本ほが多くのメディアで紹介されました。その演説には多くの名言がちりばめられており、例えば「貧乏な人とは、少ししか物を持っていない人ではなく、無限に欲があり、いくらあっても満足しない人などの言葉にハッとさせられました。氏は、幼いころ「足るを知る」の精神を日本人から学んだといえます。豊かさを幸福だと考え追い求めるが故に、消費と労働を繰り返している現代社会への警鐘―物質に値する素晴らしい演説だと思いました。(上田)

編集後記

ウィザス No. 83

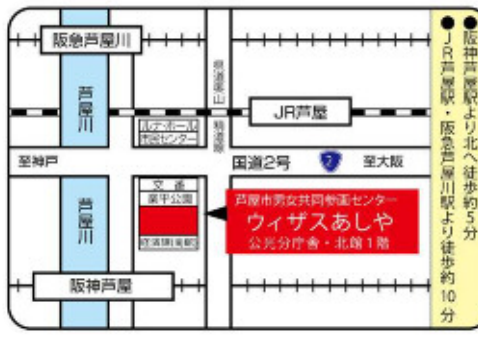
平成27年12月発行(冬号)

編集・発行 芦屋市男女共同参画センター ウィザスあしや

〒659-0065 芦屋市公光町5-8(公光分庁舎・北館1階)
TEL. 0797-38-2023 / FAX. 0797-38-2175
Eメール josei-ce@city.ashiya.lg.jp

- 開館：月曜日～土曜日・午前9時～午後5時30分
- 休館：日曜日・祝日・年末年始(12月28日～1月4日)

ホームページ <http://www.city.ashiya.lg.jp/danjo/withus/centerwithus.html>



■官民こぞって「女性の理系進出キャンペーン」

女性の社会進出がめざましい中、まだまだ理系分野に進む女性は少ないといわれます。資源の少ない日本が、技術立国としての未来を考えると、理系女性の進出が欠かせないと、政府機関・産業界がこぞって「女性の理系進出キャンペーン」を行っています。

今どき能力に男女差があると考えない人がいないでしょうが、こうしたキャンペーンが展開される背景には、逆に女性は文系を選択するものといった風潮の長い時代があったということなのでしょう。昨今の「女性の理系進出キャンペーン」は、女性の能力開発と社会進出の門戸が広く開かれるという意味では大いに歓迎されるべきことでしょう。しかし、本当の「男女共同参画社会の実現」には、時流に流されることなく、自己の能力に合った進路を主体的に決められる女性の出現こそが、最も大切なことではないのでしょうか。(J, I)



■女性の「カテゴリー化」への警鐘

近頃はやりのリケジョ(理系女子)以外にも、女性をグループ分けするさまざまな言葉があふれています。また「鉄子」「農ガール」などは、鉄道愛好家・農業に取り組む女性といったように、それぞれ女性が少ないとされた分野にも、ポジティブなニュアンスで女性たちが進出してきたことを表す言葉です。女性があらゆる分野に進出してきたことは、喜ばしいことです。しかし「リケジョ」などの言葉は、女性を無意識のうちにカテゴリー化します。言葉を使う側は差別意識などなく、趣味などによって、ただ単に女性を分類したと思うでしょう。

危険なのは、明らかな差別である「自分より相手が劣っている」と考える序列化だけではありません。女性に対する同情や美化(特別扱い)なども、対象をこちら側とは違った次元のモノとしての認識があり、差別につながります。

他にも「ミューズ」という言葉があります。これは「ギリシャ神話の芸術の女神」を指す言葉ですが、ほかに「芸術家に創作意欲を与える女性」という意味もあり、女性を美化するときに、よくこの言葉は使われます。

しかし、女性はいつもしんぷれいしょんを与える側なのでしょうか？女性自身も、創作者側に立ちうることもあるのは当然のことです。しかし「ミューズ」という言葉を使うと、女性はたやすくしんぷれいしょんを与える客体としての役割を担ってしまいます。

国は、女性研究者や自然科学系の女子学生・研究職を目指す女性を増やすための取り組みを進めています。女性が少なかった分野に女性の数を増やすという目的のほかに、社会のニーズが多様化しているため、女性独自の目線が求められているとも言われています。ただここで注意したいのは、「女性独自の目線」というものが、従来の性別役割分担意識にもとづく、「女性は優しくて気がよくつく」というものなら、時代に逆行しているといえるでしょう。このように言葉はそれぞれの対象をカテゴリー化し、その中で人々は生きています。大切なのは、言葉に対する感度の鋭さと相手への想像力です。(Y, M)



■あなたは、「理系」？それとも「文系」？

あなたは「理系」ですか、それとも「文系」ですか？「人間は考える葦である」という有名な言葉を残したフランスのパスカルは、今でいうところの理系は原理に基づいて推論を組み立てる力(幾何学の精神)、文系は、全体を感性的に通観できる力(繊細の精神)としています。

大学入試を目指す場合、高校に進むと理系・文系クラスに分かれることが多くなります。統計など数学が得意な理系、文学やデザインが得意な人は文系とされ、数字の得手・不得手と理科の負担が増えることを目安に、文系・理系に分かれることになっているようです。そして、数学に強くないとされていた女性は文系に進む、というのが少し前までは一般的でした。さらに大学などでの専攻分野だけでなく、その人の気質や性格までを含めて、「理系型人間」「文系型人間」とイメージ的な印象で語られることも少なくありません。受験やイメージではなく、本当のあなたは、「理系」「文系」、どちらですか？ちなみにパスカルは、「理系と文系の2つの力を兼ね備えることが必要である」と説いていますが…。(T, H)

■「リケジョ」の誕生

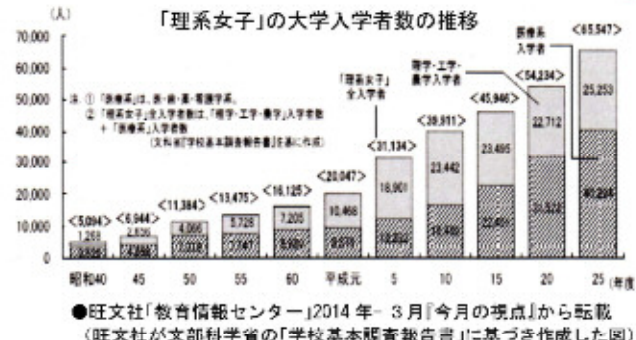
平成27年版「男女共同参画白書」に、女子学生・生徒の理工系分野への進学促進の施策がまとめられています。理系に進学する女子の人数は右図のように、平成に入って着実に増加しています。

このような動向を踏まえ、理系女子を一貫して育成・支援する体制の構築が志向されてきたのでしょう。その一方、呼称として「リケジョ」が使用される機会も増え、世の中に定着してきたようです。

2011年、「BZ反応」(*)に関する論文が米国「Journal of Physical Chemistry」に掲載されました。これは日本の女子高校生グループによるもので、当時、国内のみならず世界中で話題になりました。彼女たちの活躍によるものかどうかは定かではありませんが、「リケジョ」が使われ始めたのはこの年からだと言われます。また同年は、FIFAワールドカップでなでしこジャパンが優勝し、女性の活躍が顕著な年でした。

同年3月に発生した東日本大震災の記憶が残るなかで、二つの明るいニュースでした。現在はリケジョのほか山ガール・歴ジョ…など、さまざまな呼び方で女性を一括りにして語るがあります。一人ひとりが異なる存在であることが、多様性を担保する前提です。女性に限らず、一括りにされるところに多様性などありえません。「理系女子」を「リケジョ」と略称することに問題はないと思うものの、その意味はまるで異なることに注意したいものです。(A, F)

* BZ反応とは、Belousov-Zhabotinsky reaction(ペロウソフ-ジャボチンスキー反応)の略。高校生たちの論文名は、「Rebirth of a Dead Belousov-Zhabotinsky Oscillator」



■あなたが「本当にやりたいこと」って？

「理系」を目指す女子学生への期待が高まる中、国や大学をはじめ企業にも「リケジョ」育成・支援への取り組みが広がりをを見せてきています。

女子中学生には理系の楽しさにふれる「体験プログラム」が企画され、女子高校生には理系分野の充実している大学やその後の就職先ともなる企業の紹介情報が開示されています。

こうした女子中・高生たちへの働きかけにより、将来彼女たちがより広い分野から自分の道を選択し、その結果、理系分野においても男女比率が均一化していくのなら、それはそれで良いことなのかもしれません。

その一方、「理系女子は頭の回転が速い」や「理系女子は就職活動に有利」など、すべての価値判断を「理系型」「文系型」に無理やり対峙させ、仕事の優劣や能力、あるいは個人の性格までも決めつけてしまう傾向があることは、どうしたものでしょうか。

さらに、理系を選択すれば必ず「最先端」の仕事に就けるかのような思い込み、社会から人としての価値がより高く見られるといった誤解を植え付けることのないように、大人として伝え・見守っていく責任があると思います。

若い人たちにさまざまな選択肢があることを示して、男女の別なく一人ひとりが自分の「本当にやりたいこと」を選択できる社会こそが、私たちの目指す「男女共同参画社会」なのだ、そう伝えたいと願っています。(R, U)

